

現在韓国留学中の交流事業参加者の声 富永さん

私が旭川市と水原市の交流事業に参加したきっかけは、高一の時学校で配布されていたプリントを見たことでした。小学生のとき KPOP を好きになり、年齢が上がるにつれていつか韓国に行ってみたい！韓国人の友達がほしい！そう思うようになっていました。そのプリントを見たときいきなりその夢が叶うとんでもなく素晴らしいものを見つけた！そう思ったことを今でも覚えています。

しかし、一年生のときは部活をしようか迷っていたことや、親の反対があり結局参加することができませんでした。

でも、やはり諦めることができず親に全力で自分の気持ちを伝え、ついに高二になった初夏！交流事業に参加することになりました！

私のホストファミリーの子は日本語が話せる子ではなく、私自身も韓国語の勉強を始めたばかりでハングルを読めるようになって、少しだけ単語を知っていると言う状態でした。彼女が日本に来たときや私が韓国に行ったとき、コミュニケーションが満足に取ることができず悔しいな。もっと私が韓国語喋れたらもっと仲良くなれたのかな、そんな心残りを少しもったまま交流事業を終えました。

もともと高校卒業後は進学して韓国語を学びたいと思っていましたが、進路を決められずにいたとき、水原大学に 4 年間留学できるという話を聞きました。実際に韓国に留学生として入学した方が韓国語の上達への一番の近道だと思い、ホームステイのときの心残りもあったことから、もっと韓国語を学びたいと言う気持ちが強くなっていたので、すごくいいチャンスだったと思い留学を決意しました。

それからは資料を見たり留学をあっせんしてくださった方に大学のことや私生活のことを聞いたりしながら、両親を半年かけて説得しました。

そして、2018 年の新学期から水原大学に通い始めました！

交流事業に参加して 1 番大きかったのはホストファミリーだった子とたまたま同じ水原大学に入学していたことです。

私は韓国語ができないまま留学したのでしゃべれない不安と新しい生活に慣れることができるのかなど不安だらけでした。

でもその子が学食の使い方を教えてくれたり、サークルのことを教えてくれたり、家に泊めてくれたり、友達がいるからこそできたことが沢山あって、大学生活の視野が広がりました。

大変なこともあります。交流事業もきっかけで、韓国人だけではなく色々な国の人とも交流できたりするなど、今、毎日新鮮な経験をしています！大学を卒業したあとの自分が楽しみです！

現在韓国留学中の交流事業参加者の声 松本さん

応募したのは学校で配られたプリントを見たのがキッカケでした。その時期にちょうど韓国語講座も受講していたこともあり、応募しました。応募の人数が多いと聞いて落ちるかずっと不安でしたが、受かったという電話がきた時はすごく嬉しかったです。

ホームステイメンバー10人での初めてのミーティングでは緊張でしたが韓国人の子達を迎えるにあたってミーティングを繰り返して行くにつれ次第にお互い仲良くなっていき、ついに2016年7月にホームステイプログラムが始まりました。

最初はぎこちなさで話が弾まなかったりしましたが、約5日間の交流を通して男女問わずみんな仲良くなり、あっという間のホームステイ受け入れ期間が終わり3月に韓国へ行くという期待と共に韓国人の子達をお見送りしました。

3月に行く際には事前のミーティングで韓国の高校で披露するダンス練習などもあり、あっという間に韓国に行く日が来ました。ソウルには何度も行ったことがあった私でしたが、水原は初めてで、旭川と姉妹都市ということなので、正直ソウルよりは高いビルがないと思っていましたが、想像以上に都会で夜の街並みが輝いていたのを覚えています。受け入れの際と同様にあっという間にホームステイプログラムが終わってしまいましたが、素敵な思い出が沢山残り、高校生活の中で一番大きな経験でした。この時から韓国留学を考え始めていたのですが、ソウルの大学へ行くという考えから水原の大学にも興味を持ち始めました。また、韓国の高校生との交流を通して、自分の韓国語能力をもっと高めていきたいという目標にもつながりました。このプログラムに参加していなかったら、留学に行くという強い意志には繋がらなかったと思います。ホームステイプログラムが終わり、本格的に進路を決めて行く時期になった時に学校の先生から水原大学の語学堂へ行った先輩がいるというのを聞き本格的に留学を考え始めました。ずっと語学堂への進学をしようと思っていた私だったのですが、プログラムに参加したのがきっかけで水原での大学生活を送りたいと思い、水原大学での4年間の留学が始まりました。今もホームステイの時に出会った友達とは連絡を取り合い、遊んだりもしています。

この交流事業に参加した事で、自分自身成長した部分もありますし、とても貴重な体験になりました。